

---

---

## 資料 1

### 第 3 回検討委員会の主な意見とその対応

---

---

#### 目 次

1 第 3 回検討委員会の主な意見とその対応 .....	1
------------------------------	---

## 1. 第3回検討委員会の主な意見とその対応

### 第3回検討委員会の主な意見とその対応-1

検討委員会の主な意見	対 応
<p>➤ 平成16年度の調査結果(徳島河川国道事務所)について</p>	
<p>残存木によるマウンドの形成やヤナギ伐採後のマウンド変化の資料を示しているが、今年度は洪水によりあまりに大きい全体の地表変動があったことを認識するべきであり、全体の地表変動の中で個々の地点がどのように位置づけられるかを明確にして議論を進める必要がある。(鎌田委員)</p>	<p>平成17年度に平成16年洪水の外力の評価を行い、砂州全体のシナダレスズメガヤの消失と外力の関係を整理することとしている。</p>
<p>今後、ヤナギの伐採を行うかどうかなどの検討を引き続き実施していくうえで、通常の出水状況でのシナダレスズメガヤの状況やヤナギの周辺は、どのようなものを把握することは重要である。今年度は7月までの調査でぎりぎりデータが取れたが、来年度も検討をお願いしたい。(石川委員)</p>	<p>平成17年度にはヤナギの除去による河床材料の変化やシナダレスズメガヤの侵入状況の把握、残存木コドラートによる継続したモニタリング調査等を予定し、通常の出水状況でのシナダレスズメガヤの侵入状況を把握することとしている。</p>
<p>➤ 平成17年度の調査計画等について</p>	
<p>河床材料は、地表面だけでなくシナダレスズメガヤの根が入る20~30cmまでの深さまで調査をする必要がある。(森本委員)</p>	<p>シナダレスズメガヤの実生の侵入状況と河床材料の関係については、表層の把握でよいと考えられる。</p>
<p>国土交通省の調査でも、砂州全体での状況を把握するため、コドラートを広く分散させることについて検討が必要である。(岡部委員)</p>	<p>昨年度より鎌田委員が分散コドラートにおける調査を実施している。これらのデータについては国土交通省に提供いただける予定である。</p>
<p>鎌田委員の研究成果で、シナダレスズメガヤの流出・残存と掃流力、流量などの関係が精度の高い結論が出ていると考えられる。このため、国土交通省としての方向性は、掃流力を高めるために何ができるか、つまり減速要因となるヤナギの伐採を大きな柱にしてはどうかと考える。砂州の下流側でヤナギを切ってはどうか。(石川委員)</p>	<p>平成17年度ではヤナギの除去による河床材料やシナダレスズメガヤの侵入状況を把握する調査を予定する。</p>

### 第 3 回検討委員会の主な意見とその対応-2

検討委員会の主な意見	対 応
▶ 平成 17 年度の調査計画等について	
砂州の下流側の砂やシルトがたまっている場所では、シナダレスズメガヤに限らず、アレチウリなど他の外来種の侵入が速く進むと考えられるので、砂州全体のモニタリングをする必要がある。(鎌田委員)	植物相調査を実施し、他の外来種についても留意してとりまとめる。
当委員会とともに、樹木委員会とコアジサシの検討が進められている。これらの 3 者について、どのような方向で検討を進めることが合理的かを話し合える場や合同シンポジウムなどの形を作って、市民・県民に知らせてもらいたい。(鎌田委員)	他の委員会等と情報交換等の連携をしながら、当委員会の検討を進める。
樹木の伐採についてはやればよいと思うが、仮説と結論について明確な目標を持つべきである。(鎌田委員)	平成 17 年度調査計画及び対策検討にあたって考慮する。
岡山の旭川でシナダレスズメガヤの除去に関して、3 年前から調査を行っているが、砂州を切り下げてもシナダレスズメガヤが侵入する。このため、どの段階で人為的な労力を投入していくかなどの管理論を作る必要がある。(鎌田委員)	平成 17 年度調査計画及び対策検討にあたって考慮する。
洪水流量に関して、シナダレスズメガヤを除去する洪水もあるが、種子を運びやすい砂だけが動く流量の場合は、シナダレスズメガヤの侵入を助長する洪水もある。このことも認識し、管理論を検討する必要がある。(鎌田委員)	平成 17 年度調査計画及び対策検討にあたって考慮する。